

えびな大也

後援会通信 No.10

えびな大也後援会事務所
〒085-0847 釧路市大町1-1-10大町ビル3階
電話:0154-44-4500 FAX:0154-44-4505
E-mail:ebina@marimo.or.jp
発行/えびな大也後援会事務所



観光産業を新たな地域の リーディング産業に... つ上のまちづくりを目指します

釧路市は観光を産業として捉え、2007年に釧路市観光振興ビジョンを策定して、経済効果のある観光政策を追求してきました。国から選定された外国人旅行者(インバウンド)誘致事業、「観光立国ショークース」と「国立公園満喫プロジェクト」を中心に観光立国4事業が釧路市に集中しています。

主に外国人客の富裕層の呼び込みを見据え

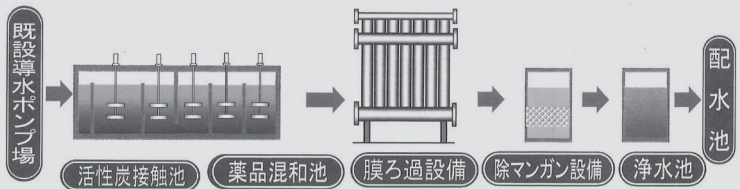
- ① 地場食材の促進、食や名産品など1次産業、2次産業との連携を図ることにより産業に厚みを持たせる
- ② 観光地としてのブランド化、アイヌ文化発信や広域観光の構築を図る
- ③ ツアーガイドなど観光に携わる人材の確保、育成など9項目の戦略を盛り込んでいきます。

また、訪日外国人客にストレスのないバスなど二次交通や通信環境を整備することも含め、2020年度まで優先的に国から支援を受けられる「観光立国ショークース」の財源をあて、観光が地域経済をけん引する「地域のリーディング産業」に位置付けをし、経済波及効果を図っていきます。
釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略を基に、引き続き雇用確保、人口減少社会に立ち向かうと共に産業振興に力を入れて参ります。

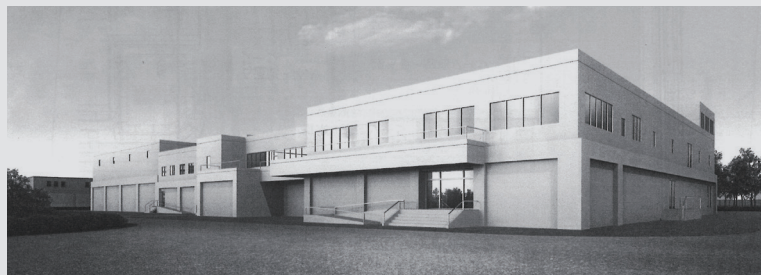
愛国浄水場施設建設

生活には欠かせない水、安心して暮らせる源です

愛国浄水場は昭和34年に愛国西4に開設され、釧路市上水道区域唯一の浄水場であり、市民生活と産業を支える重要な施設です。しかし、平成17年〜18年に耐震調査を実施した結果、ほとんどの施設が耐震強度不足で、大規模な補強が必要であると判定され、改めて愛国浄水場更新基本構想が実施されました。新浄水場での浄水処理については膜ろ過設備を導入して良質で安全、安心な水の安定的な供給をします。



特徴・膜は寿命かつ運転管理性に優れたセラミック膜を採用
・活性炭は処理性の高い微粉炭技術を採用



完成予想図

支援拠点センター

- 釧路市東部子育て支援拠点センター
釧路市春採4-19-1 旧春採保育園
TEL0154-65-9912
- 釧路市中部子育て支援拠点センター
釧路市芦野3-10-9 釧路市芦野保育園2階
TEL0154-38-5037
- 釧路市中部子育て支援拠点センターサテライト
釧路市新橋大通6-2 イトーヨーカドー釧路店3階
TEL0154-65-8740
- 釧路市西部子育て支援拠点センター
釧路市鳥取北4-21-8 釧路市鳥取保育園となり
TEL0154-65-6112
- 釧路市昭和中央児童センター親子つどいの広場昭和
釧路市昭和中央4-7-1 釧路市昭和中央児童センター内
TEL0154-55-2231



子育て支援拠点センター

こどもを育てる環境づくりをしつかり進める

子供たちは街づくりにおいて未来を担う大きな宝です。安心して子育てができるよう保育士などの専任の職員を配置し、家庭の育児不安等についての相談やアドバイス、情報提供など地域全体で子育てをサポートする体制を図っていきます。

市立釧路総合病院新棟建設

改修の設計に着手

1984年度に完成した市立釧路総合病院。2007年度には入院病棟、中央診療棟、外来棟の増築と精神科棟新設やヘリポートの新設などを行いました。その後、老朽化にともない、2015年、新棟建設、改修が計画されましたが、見直しが決定。しかし「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、基本目標のひとつ「安心な暮らしをつくる」のなかで医療施設の整備、広域的な医療体制を構築し、地域に密着した医療の充実に取り組みむこととなりました。現在の市立病院は施設の老朽化、医療機能の分断化が進み、地域での役割を十分に果たすことが困難な状況であること。大規模災害が発生した場合、災害拠点病院としての機能を確保するのが困難であることなどことから増改築の基本計画案を発表。

新棟は地下1階、地上9階建て。病床数506床とし、敷地内にある第1駐車場に建設を予定しています。圏域における中核病院としての役割を担い、より良い医療を継続して提供できる病院を目指します。



完成予想図

訪日外国人旅行者（インバウンド）を地方へ誘客するモデルケースの取り組みである「観光立国ショーケース」として釧路市、金沢市、長崎市が観光庁より選定されました。

釧路市は「手つかずの原始の大地」の象徴である、阿寒国立公園や釧路湿原国立公園など、雄大な自然環境に恵まれた観光地であり、北海道ならではの新鮮な海の幸、山の幸の美味しい食材が豊富に提供できることなどが評価されました。

「観光立国ショーケース」では2020年までに訪日外国人延べ宿泊客数約27万人などの目標を掲げ、インバウンドの全国モデルケースとなるために市庁舎内に自然、文化、食、交通、環境整備の各プロジェクトチームを発足し、目標に向けて始動しています。

また、モデル都市に選定された首長が一堂に会して初の「観光立国ショーケース3都市首長サミット」が2月18日、金沢市で開催され、えびな市長は欧米富裕層に向け阿寒湖畔の自然やアイヌ文化一つに物語をつくり、ブランド化していくことを強調しました。

「観光立国ショーケース」として 釧路市が選定

国立公園満喫プロジェクト 世界水準の「ナショナルパーク」 としてのブランド化

環境省の新規戦略のひとつとして今後5か所の国立公園をモデル地区として選び、集中的に訪日外国人（インバウンド）を誘致しようとしている「国立公園満喫プロジェクト」に阿寒国立公園が選定されました。8つめの国立公園で「国立公園ステップアッププログラム2020」を策定し、インバウンド対応の取り組みを計画的、集中的に実施し、2020年までに訪日外国人の国立公園利用者数を1000万人に目標を掲げ、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化を目指していきます。また、道東道の開通にも伴い、国内外の観光客を呼び込むことがこれからの釧路にとっての活性化につながるものです。

2018年度は長崎市で開催予定。2019年の最後に釧路市で開催が予定されています。

水のカムイ観光圏

釧路市と弟子屈町にまたがる「釧路湿原・阿寒・摩周」の3圏域で進める「水のカムイ観光圏」整備計画が観光庁より新規認定を受けました。道内では富良野・美瑛・ニセコに続く3例目です。



釧路市と弟子屈町は2015年度から5年間で滞在型観光圏を作るため、交通の利便性や滞在プログラムの開発など二般社団法人釧路観光コンベンション協会が中心となり、釧路市と弟子屈町の観光関係者が連携して進めています。ここでは、来客者満足度、宿泊数の目標値を設定し、施設の多言語化（WiFi）整備など観光客をおもてなしできる態勢づくりに動いています。2つの国立公園と世界的にも希少な自然環境、長期滞在できる魅力ある自然と共生した滞在観光地を目指していきます。

阿寒摩周国立公園へ 名称変更

国立公園満喫プロジェクトに選定されている阿寒国立公園について環境省は地方自治体からの強い要望が出ていた「阿寒摩周国立公園」の名称変更を検討していました。阿寒国立公園は釧路市、阿寒町、弟子屈町など1市10町の広さを誇っていますが、年間約5〜7万人が訪れるとされている「神の子池（清里町）」など900ヘクタール余りを新たに公園に加え、阿寒湖畔の白湯山麓への休憩施設の整備も盛り込まれています。「阿寒」と「摩周」を名称に入れ、観光地としてのブランド力を一層高め、世界へむけての発信力が強まることを期待されます。名称変更正式決定は7月〜8月になる見通しです。

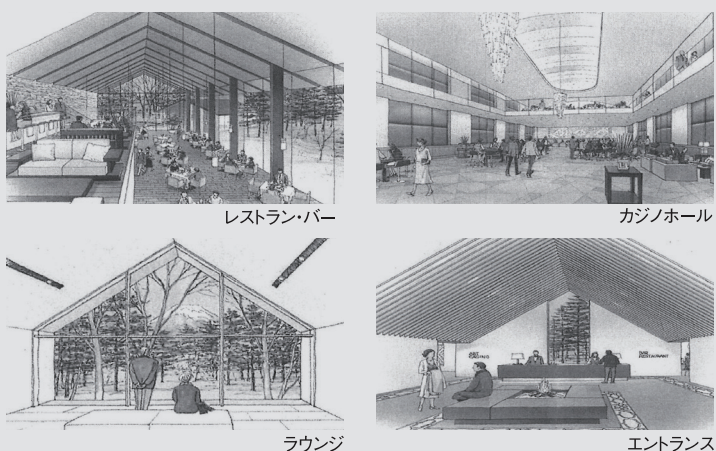


白湯山麓 神の子池

観光の起爆剤、 統合型リゾート（IR） 誘致構想



統合型リゾート（IR）とはカジノに加え、ホテル、会議施設、展示物、レストラン、ショッピングモールやエンターテインメント施設等地域における様々な観光資源を複合開発する総合的な観光施設のことです。昨年12月に推進法が可決され、北海道では苫小牧、釧路市、留寿都村が誘致の候補になっており、釧路市は阿寒湖温泉地区への統合型リゾート（IR）の実現に向けた取り組みを進めています。



釧路湿原国立公園、阿寒国立公園の雄大な自然に恵まれた北海道の中核、拠点都市と言われている釧路市ですが少子高齢化などの影響により人口は減少していくと予測されています。今後、成長が見込める分野として観光産業を新たな核とし、カジノに加え、自然体験、地場の食材を使った料理、温泉など付加価値化につなげ、国内外の富裕層をはじめ長期滞在型の観光客の取り込みを図っていきます。